



CHAPTER 1

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティのインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- 「概要」 (P.1-1)
- 「Linux サーバへのインストール」 (P.1-1)
- 「EFI シェルを使用したユーティリティのインストール」 (P.1-3)

概要

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティは、スタンドアロン サーバのホスト (x86) ベース システムのファームウェア バージョンの更新に使用されます。ネットワーク上にないシステムファームウェア バージョンを更新するために、このユーティリティを使用します。

前提条件

このユーティリティを使用するには、以下の注意が必要です。

- ラックマウント サーバは、Intelligent Platform Management Interface Specification (IPMI) v2.0 準拠である必要があります。
- サーバは、Linux オペレーティング システムを実行しているか、EFI シェルに起動される必要があります。
- Linux サーバでこのユーティリティを使用する場合は、**root ユーザ**または**スーパー ユーザ**としてログインする必要があります。

Linux サーバへのインストール

CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティは、バイナリ ファイルであり、インストールに他のファイルは必要ありません。インストールする必要があるのはバイナリ ファイルのみです。

Linux サーバにこのユーティリティをインストールするには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** 次の場所から、USB フラッシュ ドライブにソフトウェア コンテナをダウンロードします。
www.cisco.com > [Products and Services] > [Unified Computing] > [All Products] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers] > [Download Software]。

このページで、適切なサーバを選択し、[Unified Computing System (UCS) Software Container for Rack Mount Servers] を選択します。

USB フラッシュ ドライブにファームウェア アップデート ユーティリティとイメージ ファイルをダウンロードするまで、画面の指示に従います。ユーティリティとイメージ ファイルは、圧縮ファイルと一緒に入っています。

- ステップ 2** コンテナ ファイルを解凍します。ファームウェアの最新バージョンを含むフォルダが作成されます。このフォルダには、次のフォルダが含まれています。
- bios
 - cimc
- ステップ 3** cimc フォルダに移動します。2 つの圧縮ファイルが入っています。fwup-1.x.x.zip という名前のファイルを解凍します。
- 次のフォルダが作成されます。
- linux
 - uefi
- ステップ 4** linux フォルダに移動し、fwup-v1_x.tgz ファイルを解凍します。
- ユーティリティ ファイルがフォルダに抽出されます。
- ステップ 5** サーバですでに Linux オペレーティング システムが実行されていない場合は、サーバを Linux オペレーティング システムで再起動します。
- ステップ 6** root ユーザまたはスーパー ユーザとしてサーバにログインします。
- ステップ 7** **service ipmi status** コマンドを使用して、ipmi service が実行されていることを確認します。
- このサービスが実行されていない場合は、次のコマンドを入力してください：
- service ipmi start**
- ステップ 8** USB フラッシュ ドライブをサーバに接続し、標準の Linux **mount** コマンドを使用してフラッシュ ドライブをマウントします。
- ステップ 9** 接続された SCSI デバイスのリストを表示するには、**fdisk-l** コマンドを使用します。
- USB フラッシュ ドライブが接続デバイスとして表示されます。
- ステップ 10** フラッシュ ドライブのユーティリティに移動します。
- ステップ 11** ユーティリティ ファイルを USB フラッシュ ドライブから実行しない場合は、サーバ上のフォルダにファイルをコピーして、このフォルダからユーティリティを実行することができます。
- ステップ 12** **fwup** コマンドを使用して、ユーティリティを実行します。
- インストールが完了すると、このユーティリティを使用して CIMC のファームウェア バージョンを更新することができます。詳細については、第 2 章「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用」を参照してください。



(注)

Linux サーバから CIMC ファームウェア更新ユーティリティを削除するには、標準の Linux の **rm** コマンドを使用して、フォルダからファイルを削除します。

EFI シェルを使用したユーティリティのインストール

EFI シェルを使用してサーバにユーティリティをインストールするには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** 次の場所から、USB フラッシュ ドライブにソフトウェア コンテナをダウンロードします。
www.cisco.com > [Products and Services] > [Unified Computing] > [All Products] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Servers] > [Download Software]。
このページで、適切なサーバを選択し、[Unified Computing System (UCS) Software Container for Rack Mount Servers] を選択します。
USB フラッシュ ドライブにファームウェア アップデート ユーティリティとイメージ ファイルをダウンロードするまで、画面の指示に従います。ユーティリティとイメージ ファイルは、圧縮ファイルと一緒に入っています。
- ステップ 2** コンテナ ファイルを解凍します。ファームウェアの最新バージョンを含むフォルダが作成されます。このフォルダには、次のフォルダが含まれています。
- **bios**
 - **cimc**
- ステップ 3** **cimc** フォルダに移動します。2 つの圧縮ファイルが入っています。fwup-1.x.x.zip という名前のファイルを解凍します。
次のフォルダが作成されます。
- **linux**
 - **uefi**
- ユーティリティ ファイルは、**uefi** フォルダにあります。
- ステップ 4** サーバを EFI シェルに再起動します。
- a. サーバをリブートします。
 - b. コンソール画面を確認し、指示が表示されたら、F6 キーを押して [Boot Options] メニューを開始します。
 - c. [Boot Options] メニューで、[EFI Shell] を選択し、Enter キーを押します。
- ステップ 5** サーバに USB フラッシュ ドライブを接続します。
- ステップ 6** **shell > map -r** コマンドを使用して、システムにストレージ デバイスをマップします。
- ステップ 7** **shell > fs0: or fs1:** コマンドを使用して、シェルのマップされているデバイスのファイル システムに変更します。
- ステップ 8** **fs0** ディレクトリから、プロンプト上でユーティリティを実行します。
fs0:\> fwup.efi <options>
- インストールが完了すると、このユーティリティを使用して CIMC のファームウェア バージョンを更新することができます。詳細については、第 2 章「CIMC ファームウェア アップデート ユーティリティの使用」を参照してください。



(注) EFI シェルを使用してユーティリティを削除するには、**del** コマンドを使用します。

■ EFI シェルを使用したユーティリティのインストール